

2016年2月版 FIE 競技規則の変更点 (変更した部分は青字)

審判委員会 2016年5月17日

t.17

- 2 フルーレとエペでは、主審は、各選手の前足がそれぞれピストのセンターラインから2mの位置(即ち「アン・ガルド」の線の後ろ)になるように両選手を構えさせる。
サーブルでは、レフェリーはピストの中央線から2mのところ後ろ足を置くように2名の選手を構えさせる。
t.17.2の変更はオリンピック大会の後2016年12月31日まで有効である。次の理事会でルール変更を決定したら引き続き適用される。
- 9 もし選手がピストの横の境界線を片足又は両足が越えた場合は、その選手が後方境界線の後ろに位置することになっても、またそれによって相手にポイントを与えることになってもフェンシングの正しい距離による構え直しをさせることができる。(t28、t102を参照)

t.18

- 5 フルーレでは、フェンシングの試合の最中、剣を持っていない腕の肩を、剣を持っている腕の肩の前に出すことは禁じられている。(t19を参照)
もし、対戦選手がそうしたら、t114、t116、t120の条項に明記されている罰則をうけることになる。また、違反した選手のトゥシュは無効となる。
これは2016～2017年シーズンより適用する。

- t32-3 レフェリーは、試合を通してタイムキーピング(時間管理)をしなければならない。もし、時計が壊れていたら、レフェリーは自らどれだけ試合時間が残されているか予測しなければならない。レフェリーは時間を手動でリセット出来なければならない。必要なら以前に表示された100分の1秒に最も近い時間にリセットする。
適用:2015/2016年では世界選手権大会とオリンピック大会のみ、2016/2017年では、ワールドカップ大会(ジュニアとシニア)、グランプリ大会とゾーン選手権大会(ジュニアとシニア)]

用具規定附属書類 B

C.サーブル/a)原則

- 8)トゥシュの記録が行われた後、他方の選手が行った後続のトゥシュは、最大170ミリセカンド(±10ms)以内に行われた場合にのみ審判器に記録される事とする。
これは2016～2017年シーズンより適用する。